

氏名	玉 井 国 昭
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 9 9 号
学位授与の日付	昭和44年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Cross Lip Flap の筋電図学的考察
論文審査委員	教授 田 中 早 苗 教授 福 原 武 教授 西 田 勇

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Cross lip flap は赤唇を含む口唇の全層欠損、および変形拘縮に対する皮弁移植である。この皮弁の筋電図学的評価を行なった。

皮弁のMotor unit は2ヵ月後から現われ始め、3ヵ月で全症例に出現し、6ヵ月で全例にFibrillation voltageが消失したことから、6ヵ月までにかなり運動神経再支配が完了している。1年でほぼ正常のMotor unitとなった。

誘発筋電図では、耳下で顔面神経に刺激を与え、皮弁内で採取した潜時と、皮弁隣接正常部で採取した潜時の差で評価した。その結果、潜時の延長がごく小さい皮弁は、外見上も筋の収縮が良く、正常なMotor unit を有しながら、潜時の延長が著しいものは、外見上筋の収縮が良くなかった。外傷性癱痕拘縮の症例は、1年後でもMotor unitはlow voltageで、数の減少が著しく、潜時の延長も著明であった。

Cross lip flap は確かに皮弁が運動神経再支配を受けて、機能を回復している。それには約1年かかるが、この好結果は、同じ口唇組織の移植ということにも関係が深いように考えられる。

(昭和45年4月10日、雑誌“形成外科”第13巻第2号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、Cross Lip Flaps の機能再開を筋電図学的に考察した研究であり、従来の単なる筋電図検索のみでは不十分であった筋機能の回復の状態を誘発筋電図の潜時を調べることによって正しく評価したすぐれた業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。